



伊能忠敬は文化5年(1808)松山城下から北条へ向かう途中に立ち寄ったとある



ここが熟田津かとも。中央の山は蓮華寺。松山城防衛の「七曲り」とつながるもので、人々が容易に近づけないよう境内に墓は持たなかった



トンネルのような道も通る



▲比翼塚

比翼塚の一本桜。その美しさが衣を通してもわかることから「衣通姫(そとおりひめ)」とも呼ばれる軽太郎女をあらわすようだ



隠れキリシタンの墓。中央に十字架、右に教会石、左に五輪塔が並ぶ



のどかな山の辺のみち

北条・伊予山の辺のみち 比翼塚からJR大浦駅



松山神社社殿裏手に作られた裏参道からみかん畑を降りる。⑧護国神社まで約15分



⑦松山神社の飛び梅。ここには家康公と菅原道真が合祀されている



松平定行公の盥廟がある⑥常信寺。



ロシア人墓地には日露戦争で捕虜となり松山で亡くなったロシア兵らが眠る



千秋寺山門は黄檗宗の独特の建築技法で建てられている



愛媛万葉苑内にある熟田津の歌碑と説明の副碑

「見史遊康」のみち

当初「伊予山の辺のみち」として提唱されたコースは、石手寺から山の端を伝って道後温泉界隈、祝谷、城北の寺町を抜け終点が姫原の比翼塚まで。

松山では比較的知られた道なので、一人でも気軽に歩くことができる。もちろん途中でコースを変更して松山城方面へ向かったり、季節の花を追いかけて歩いたりしてもよい。

見て楽しみ、歴史をひもとく、遊び親しまれ、やすらぎと癒を与えてくれることから「見史遊康のみち」とも「歩こう会」では呼んでいる。

先人への尊敬のみち

コースの見どころは道後村めぐりのポイントと重なるものも多い。「坂の上の雲」ゆかりの地でもある秋山好古の墓は温泉街の高台⑤鷺谷墓地にある。ここには、道後温泉本館を造った伊佐庭如矢の墓もあり、温泉街の反映ぶりを目の当たりにしてさぞかし満足されていることと思う。白川義則、桜井忠温、中村草田男の墓もある。

偉大な先人も大概一般の墓所に葬られている。神社仏閣も同じだが礼節を忘れずに、敬虔な気持ちでお参りしたいものだ。

悲しい恋を辿るのみち

一遍上人の生誕地④宝厳寺には歌人・斉藤茂吉が訪れている。案内したのは松山の弟子・永井ふさこだった。

妻子ある茂吉とふさこのロマンスは破局、茂吉を思い、終生独り身で通した。

一方、神話時代に同母ゆえ許されぬ恋に落ち、伊予に流された軽皇子と軽太郎女の②0比翼塚は、①9軽之神社東の山裾にある。比翼塚とは情死した男女を一緒に葬った墓のこと。悲恋の心中ではあるが、軽皇子と軽太郎女は共に祭られている。

※本文中の見どころナンバーは後ろの地図を参照